

お知らせ

Information

令和3年度

京都第一赤十字病院 病診連携懇話会

日程

10月7日(木) 18:00～

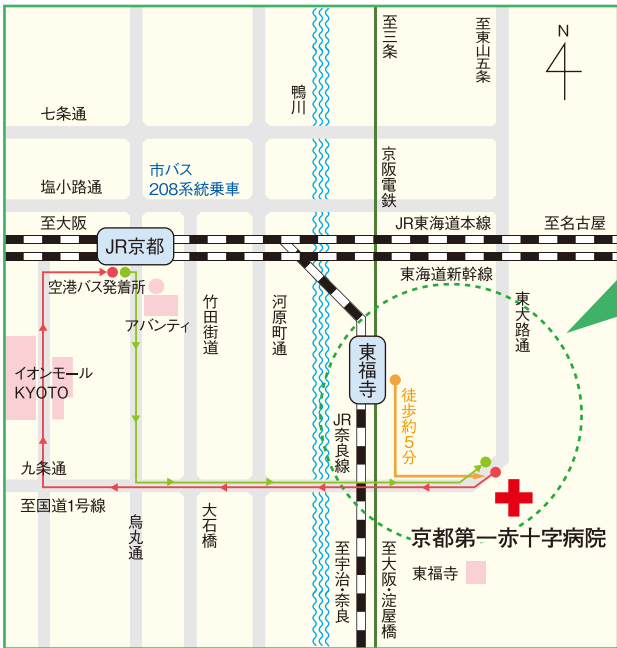
会場

ハイアットリージェンシー京都

※詳細は後日お知らせいたします。

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202, 207, 208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】…京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】…国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】…竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内【JR京都駅八条口⇄病院(地下鉄九条駅経由)】

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45 次発 8:10、以降30分間隔で運行	9:00 以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行しておりません。 ※12:30病院発の便は運行しておりません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土・日・祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。



京都第一赤十字病院

日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。 Our world.Your move.

京都第一赤だより

き す な

夏号

2021年9月発行
vol.80

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

Content

● 就任のご挨拶

● 診療科紹介 心臓血管外科

● 診療科紹介 整形外科・リハビリテーション科

● 抗原検査センターの役割

● UV-C紫外線照射システム「サブロー」

● お知らせ

残暑お見舞い申し上げます。

平素は沢山の患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。また転院や逆紹介につきましてもご支援、ご協力いただき心より感謝致します。

近年は夏になると地球温暖化による猛暑日や豪雨などによる被害が急増しているうえに、昨年からのコロナウイルス感染の蔓延により、世間は混乱・混迷の中にあるかと思ひます。人が元気に楽しく暮らしていくために何を行っていくべきかは、我々自身が考え行動していくことが重要と思いますが、今はネットなどに情報があふれ、何を信用すれば良いのか逆に分からなくなっている状況です。それ

故、正しい情報を専門家がきっちりと伝えていく必要があると思ひます。医療・災害のことについては、日本赤十字社として国民に広く情報提供を行っておりますが、身近な地域の人たちには、各々の病院が地域に即した情報発信をしていく必要があると考えます。コロナ禍で対面での情報発信が難しくなっている状況ですが、連携病院・医院のお力添えをいただくことにより、そのような情報も発信していけるものと考えており、この絆もそのひとつと考えます。今後ともご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

副院長 塩飽 保博

就任のご挨拶

Assumption of office greetings

山田 丈弘

脳神経・脳卒中科／
副部長

【専門領域】

臨床神経学全般、神経救急医療、
神経感染症治療、脳梗塞急性期管理、脳血管内治療

この度、脳神経・脳卒中科の副部長を拝命しました山田丈弘と申します。平成16年に京都府立医科大学を卒業しました。京都府立医科大学脳神経内科に入局し、平成23年度から平成26年度までの4年間、当院にて研鑽を積ませていただきました。その後は関連病院での勤務を経験し、本年4月に再び戻ってまいりました。

当科は脳神経疾患および脳卒中の内科診療を担っています。なかでも脳神経救急疾患の診療では、院内各科・コ・メディカルの協力を得て集学的治療を実践しております。脳主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞診療では、患者様の転帰改善を目指すため、急性期脳卒中センターが一つのチームとなり、カテーテルでの血行再建術に取り組んでおります。いずれの診療につきましても、当院の充実したチーム医療があるからこそ実現できるものであり、神経救急を専門としている私にとっては、まさにホームに帰ってきた感じがしております。そのホームにて私自身、新たなことにも失敗を恐れず挑戦していきたいと考えています。

認知症、パーキンソン病、てんかん、頭痛、めまいなどの一般脳神経疾患の患者様に対しても、神経内科医として腰を据えて、患者様・ご家族様にご納得いただけるよう、丁寧な診療を心掛けております。神経症状でお困りの患者様がおられましたら、いつでもお気軽にご紹介いただければと存じます。

部長の今井とともに当院の診療を支え、よりよい脳神経・脳卒中医療を地域の皆様に提供できるよう、これからも日々努力してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

【卒業年】
平成16年

【認定医・専門等資格名】
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本神経学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医



小谷 直広

放射線治療科／
副部長

【専門領域】

放射線治療一般
特に定位放射線治療など

この度、放射線治療科副部長を拝命しました小谷直広と申します。平成18年に京都府立医科大学を卒業後、当院で初期研修を開始し、京都府立医科大学放射線科入局～大学院、当院、京都第二赤十字病院、福知山市民病院での勤務を経て、令和3年より当院に赴任しております。

今まで非常勤も合わせると8施設の放射線治療部門を見てきましたが、当院の放射線治療部門は設備的に非常に充実しておりますし、ナースや放射線技師など一緒に働くスタッフもアクティブに診療に携わっており、恵まれた環境で勤務させて頂いております。

患者さんや院内/地域の医療スタッフの方々に放射線治療を身近に感じて頂き、より多くのがん患者さんに放射線治療

の恩恵をお届けすることが私の仕事だと考えております。地域のがん医療に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

【卒業年】
平成18年

【専門等資格名】
日本医学放射線学会治療専門医
日本医学放射線学会指導医



心臓血管外科のご紹介

Introduction of clinical
department

【診療スタッフ 敬称略】

写真は左から
高橋章之、春藤啓介、山崎祥子、
岡 克彦、大川和成



心臓血管外科

部 長

高橋 章之

平素は格別のご厚情を賜り誠に有難うございます。当院の心臓血管外科は冠動脈疾患や弁膜症などの心臓手術や急性大動脈解離や大動脈瘤などの大動脈疾患、さらに末梢動脈疾患や下肢静脈瘤などの静脈疾患、ペースメーカーと多岐に渡る手術を行っております。ここ数年は心臓・胸部大動脈手術は年に約130例、腹部大動脈瘤が約50例、末梢動脈手術約30例、下肢静脈瘤手術約50例、ペースメーカー交換約25例で推移しています。また年間30例ほどStanford B型急性大動脈解離も他院から紹介頂き、保存的治療を行いながら手術のタイミングを図っています。高橋章之（昭和63年卒）は2006年1月から当院に赴任し2007年4月より部長となり、当院就任後だけでも1500例以上の心臓大血管手術を行っています。大川和成（平成8年卒）は赴任7年目となり副部長として主に心臓大血管のopen surgeryや下肢静脈瘤を担当しています。春藤啓介（昭和61年卒）は沖縄北部地区医師会病院や洛和会音羽病院の心臓血管外科部長を経て一昨年から当院へ赴任しました。救急科兼任となっておりますが、豊富な経験を元に広い分野で当科全体のレベルアップに貢献しています。岡 克彦（平成4年卒）は主に大動脈疾患、特にステントグラフトを始めとする血管内治療を担当しています。京都府立医科大学関連病院すべてのステントグラフトを黎明期から支えてきた第一人者であり3000例近くの治療経験があります。以前から当院でのステントグラフト治療をサポートしてきていましたが、昨年5月より当院

常勤となり緊急対応をはじめ、よりflexibleな対応ができるようになりました。山崎祥子（平成12年卒）は京都府立医科大学の他、国立循環器病センターや福井循環器病院などで研修を積み、兵庫医科大学で低侵襲心臓手術（minimally invasive cardiac surgery ; MICS）のトレーニングを積んで今年6月から当院へ赴任しました。このように他院ではないような経験豊富な5人がチーム一丸となって一人一人の患者さんに向き合って治療を行っておりますので、先生方のお近くに気になる患者さんがおられましたら是非お気軽にご相談下さい。

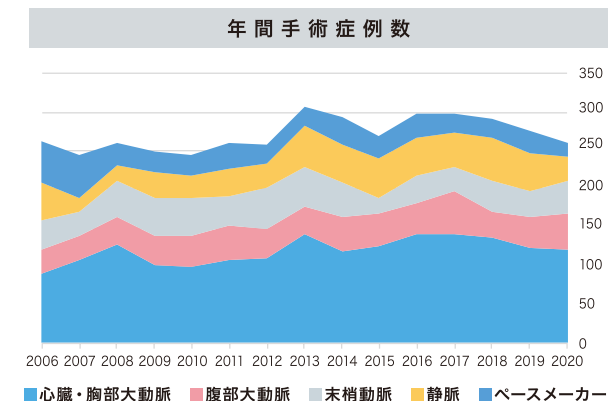


図1

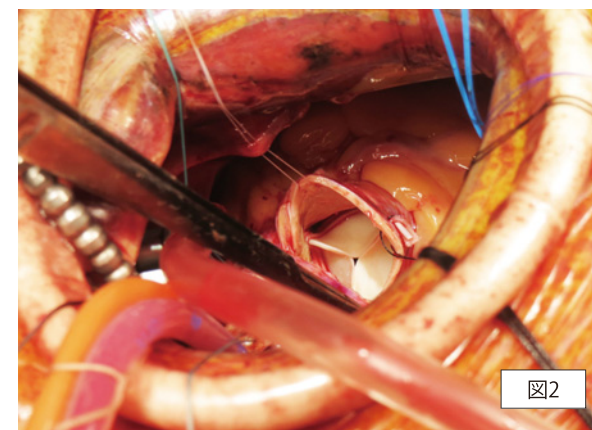


図2

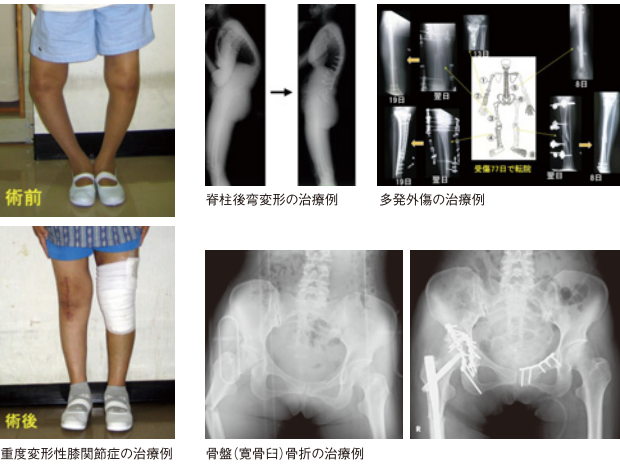
図1：弓部大動脈瘤に対する左総頸動脈と左鎖骨下動脈にバイパスを追加しての胸部大動脈ステントグラフト内挿術（2-debranch TEVAR）
図2：右腋窩小開胸による胸骨を切らない大動脈弁置換術（MICS-AVR）

心臓血管外科 診療担当表	月	火	水	木	金
一診		担当医 (ペースメーカー外来と病診・対診)	春藤(奇数週) 岡(偶数週)	高橋	大川(奇数週) 山崎(偶数週)

整形外科のご紹介

部長 | 大澤 透

平素は格別のご厚情を賜りまことにありがとうございます。整形外科の近況をお知らせします。整形外科スタッフは現在常勤12名（救急部所属1名、リハビリテーション科所属1名含む）、非常勤3名で構成しています。脊椎脊髄疾患専門医2名、骨軟部腫瘍外科医2名、小児整形担当医1名が所属し、慢性疾患から急性疾患まで、さらに他院では対応困難なハイリスク症例に対応しています。手術件数は昨年はコロナ禍により減少しましたが、近年は1300件を超える手術を行っています。



患者様のご紹介について

整形外科は当院で最も早く平成26年より初診患者様の完全紹介予約制を導入しています。完全紹介制は敷居が高い印象を与えますが、地域医療連携の最初の重要な入り口と考えています。受診前から必要な患者情報を入手し事前検査を行うことによる診療の効率化、そして治療終了後や病態が安定した段階での紹介元へのスムーズな逆紹介により、外来業務をコンパクトにし入院業務へより人的資源を振り分けています。医師の働き方改革を推進していく上でも重要なシステムになると考えています。コロナ禍において巣籠もりによる運動量低下、治療控えなどが健康寿命に大きな負の影響を及ぼしています。かかりつけ医の皆様からの患者様ご紹介を何卒よろしくお願い致します。

当科で行っている代表的疾患と治療法

(カッコ内は入院日数)

変形性関節症：
人工膝関節（20日）、人工股関節（19日）、脛骨骨切り術（23日）、
膝靱帯損傷：靱帯再建術（13日）
多発外傷、重度四肢軟部損傷、骨盤外傷四肢の骨軟部腫瘍
腰椎椎間板ヘルニア：
椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア）（2日間）、
完全内視鏡下椎間板ヘルニア摘出（4日間）
腰部脊柱管狭窄症：
顕微鏡視下椎弓形成術（10～12日間）
骨粗鬆性椎体圧迫骨折：椎体形成術（BKP）
思春期側弯症、成人脊柱変形、医原性腰椎固定術後腰痛

整形外科紹介初診担当表

月	火	水	木	金
植田 (骨軟部腫瘍)	大澤 (脊椎)	栗林 (股関節)	奥村 (手の外科、末梢神経)	吉原 (膝関節、一般整形)
森 (脊椎)				
杉江 (骨折、一般整形)	溝尻 (骨軟部腫瘍、 一般整形)	岸田 (骨折、一般整形)	橋本 (脊椎、一般整形)	輪番

※10月以降の担当表になります。現在の出番は同封の診察担当表をご確認ください。



手術実績紹介

年	2018	2019	2020
骨接合術	360	333	278
脊椎脊髄	258	267	249
人工関節	231	219	242
腫瘍	38	47	21
創外固定	21	13	8
総件数	1319	1315	1180

病診連携実績紹介

施設名	件数	入院件数	入院化率
小林整形外科医院	50	33	66.0%
中山整形外科クリニック	28	18	64.3%
はしひら医院	31	16	51.6%
東整形外科医院	73	11	15.1%
京都久野病院	54	11	20.4%
しらす整形外科医院	40	11	27.5%
高生会整形外科クリニック	25	9	36.0%
横関整形外科医院	16	8	50.0%
十条武田リハビリテーション病院	71	6	8.5%
原田病院	26	6	23.1%
京都九条病院	17	6	35.3%
愛生会山科病院	12	6	50.0%
橋本整形外科	10	6	60.0%
永谷クリニック	23	5	21.7%
桃仁会病院	14	5	35.7%
国立病院機構 京都医療センター	7	5	71.4%
坂東医院	12	4	33.3%
あさひ整形外科	11	4	36.4%
蘇生会総合病院	10	4	40.0%
三島医院	9	4	44.4%
川原林整形外科医院	9	4	44.4%
田中整形外科(伏見)	8	4	50.0%
いわさき整形外科医院	7	4	57.1%
さわい整形外科内科クリニック	6	4	66.7%
鈴木整形外科医院(山科)	4	4	100.0%
岩田クリニック	4	4	100.0%

リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科 | 部長 | 池田 巧

リハビリテーション科では、さまざまな疾患、外傷、病態により生じた機能障害を回復させ、残存した障害を克服しながら患者さんの「活動を育む」急性期医療を実践しています。リハビリテーション科専門医2名、理学療法士17名、作業療法士6名、言語聴覚士4名が、各診療科主治医、看護師、義肢装具士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、薬剤師などと多職種協働してリハビリテーション診療を行っています。リハビリテーション室だけではなく、ICUや病室での訓練も重視して、病棟専従・専任の療法士も配置しています。入院患者さんに対して、ガイドラインに則ったリハビリテーション治療に加え、リハビリテーションロボット、機能的電気刺激（FES）機器、干渉電流型低周波治療器（ジェントルスティム）などをはじめとする最先端の機器を用いた治療も提供しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い入院患者数は減少しましたが、2020年の新規患者数 3331例で表のごとく、原因によらずほぼすべての領域の患者さんに対応しています。われわれは、あらゆる手段を用いて質の高い生活の再建につながるように患者さんを支援して参ります。地域における病病連携、

病診連携の一端を担えるように努力して参ります。今後ともご協力、ご指導よろしくお願い申し上げます。

表 リハビリテーション科診療実績（2020年）	
疾患	新規患者数(例)
脳卒中、その他の脳疾患、脳外傷	607
脊髄損傷、その他の脊髄疾患	399
関節リウマチ、その他の骨関節疾患	757
脳性麻痺、その他小児疾患	57
神経及び筋疾患	70
切断	4
呼吸器・循環器疾患	854
その他(悪性腫瘍、熱傷など)	583
合計	3331



抗原検査センターの役割

～安心して入院していただくために～

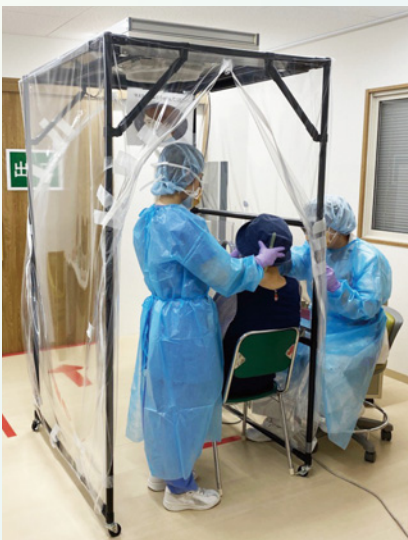
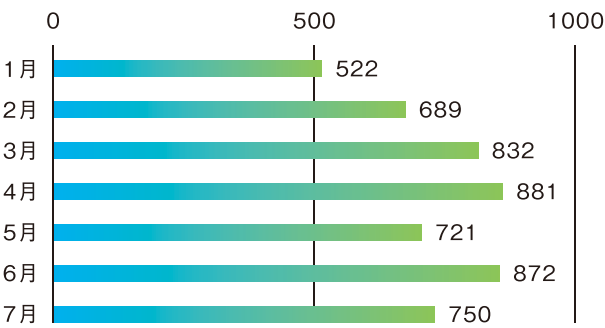
看護副部長 | 田中 由美子



院内での新型コロナ感染対策として、2021年1月より定期入院患者に対し、入院当日の抗原定量検査を行っております。また、肺機能検査前の患者、内視鏡で行う長時間治療患者、通院でリニアック治療を行う患者にも実施しており、7月末までに5267件実施いたしました。この検査で入院前患者1名、検査

前患者1名に抗原陽性を認めており、入院や検査を延期して感染拡大を予防することができています。患者さまやご家族の方に安心して治療や入院生活を送っていただけるよう、今後とも水際対策を行ってまいりますのでご紹介よろしくお願いたします。

抗原検査件数 n=5267



UV-C紫外線照射システム「サブロー」

感染管理室 | 山城 裕子



令和3年1月、当院ではUV-C紫外線照射システムを導入しました。愛称は「サブロー（360）」です。360度の短波紫外線（UV-C）照射により細菌やウイルス、真菌、芽胞菌などの病原体に汚染された環境表面を除菌します。

ICT念願の薬剤耐性菌対策用でしたが、今は新型コロナウイルス感染症対策として大活躍しています。

WHOは新型コロナウイルスの生存期間を、「プラスチックの表面では最大72時間」としています。また、COVID-19感染の10%は環境からともいわれます。環境整備は重要ですが、その作業にも感染のリスクがあります。可能であれば、部屋を閉鎖し72時

間後に環境整備を行いたいところですが、ままならない場合は、一次消毒としてUV-C照射を行い、環境整備終了後に再度UV-C照射を行っています。

院内感染を起こさないように、個人防護具を着用し、汗だくになりながら隅々まで清掃していただいている看護補助者や看護師などの皆さんの心的負担や不安の軽減にもつながっています。

「サブロー」は、身長184cm、体重40kgですが、キャスター付きで移動はスムーズです。1回の照射時間は6分（初期設定）で、照射後すぐに部屋の使用ができます。

※無人環境下での使用

表1 照射時間設定目安

微生物	環境表面までの直接距離 (m) / 99%除菌にかかる時間 (分)		
ウイルス	0.9m	2.4m	3.6m
インフルエンザA	1	1	2
ロタウイルス	2	2	3
ノロウイルス	2	3	4
細菌	0.9m	2.4m	3.6m
アシネトバクター・パウマニ	1	2	2
メスチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)	1	2	3
肺炎桿菌 (CRKP)	1	2	3
バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)	1	2	3
クロストリジウム・ディフィシル	3	4	10

UV-C紫外線照射システムUVDI-360-モレーンコーポレーション (moraine.co.jp)

